



旭三小だより

令和4年度 学校通信
第7号 9月30日(金)

旭川市立旭川第三小学校

身につける力を使う場面を考えて

校長 三木 勝仁

学校の学習は教科ごとに学習内容が整理されているので、学ぶ者にとって効率よく知識や技能を身につけられるというメリットがあります。ですが実際の生活場面では、1つの教科の学習内容だけで解決できず、複数の教科の学習内容が重なった問題に出会うことが多くあります。例えば食材を買うときには、栄養のバランスは家庭科、旬や特産を考えるなら理科や社会、商品の特徴の説明を読むなら国語、代金計算は算数、SDGsも考えると……。何を優先して判断するかは、「深い学び」の領域、個々人の考え方が現れる場面であり、身につける力を使う場面を考えた工夫が指導の際に大切になります。

今号では、「学習する内容(育てたい力)」と「学習した内容を活用する場面」を効果的に組み合わせ、「深い学び」を大切にしたい取組を、5年担任高橋教諭に寄稿してもらいました。教室・学校の中だけでなく、実際の生活場面で「生きて働く力」を子どもそれぞれにつけるために、「育てたい力」と「活用できる場面」を計画的に配置した教育活動を進めています。

すばらしい…

①「手で水をくんで、
運んでいいですか？」

玄関が開くのを待っているときに、突然、きかれました。「濡れてもいいなら」と答えると、その子は急いで走り行きました。歩道と車道の境にナメクジが2匹いて、「乾くと死んじゃうから」と水をかけていたのです。水をかけてもらってピカピカになったナメクジを2人で葉っぱと石にそれぞれ乗せ、草原に引っ越ししてもらいました。

②「トンボはメスの方がなつきやすいんだよ」

そう教えてくれた子がいました。トンボがなつくなんて考えたこともありませんでした。トンボが苦しくないようにフワッと捕まえながら教えてくれた、その子のランドセルに、アカトンボが1匹とまっていた。きっとメスのトンボだったと思います。

リレー連載

カリキュラム・マネジメント

カリキュラム・マネジメントで主体的で深い学びを

5年1組担任 高橋 裕美

子どもたちは、各教科でそれぞれの目指す姿に向かって学習しています。

ある国語の授業では、子ども同士でインタビューをし合い、「きくこと」について考えました。①相手に尋ねるとき、②質問に答えるとき、③記録を取るとき、④報告を聞くときなど、色々な場合の「きく」があることを体験しながら考えました。

また、5年生の社会には「米作りがさかんな地域」という学習があります。教科書では山形県庄内平野の米作りを詳しく学習します。米作りには色々な作業があり、多くの人が関わっていること、農業における課題を解決するためにさまざまな工夫を考え取り組んでいることなどを学習しました。

旭川第三小学校の5年生の総合的な学習に時間には「ふるさと再発見!」という学習があります。これは、「自分たちが住む東光地区の魅力を再発見し、さらにパワーアップさせるために自分たちには何ができるかを考え、実行し、振り返る」という内容となっています。

ここで、先程の国語と社会で学習した「知識・技能」が活用されることとなります。子どもたちは、自分たちが知りたいことを、自分から声をかけて、地域の方にインタビューします。「どのように言ったらいいかな。」「聞く人とメモを取る人で役割分担したほうがいいな。」などと、グループで考えました。また、東光地区にも田んぼがあり、農家さんのご協力のもと田植え・稲刈り体験を毎年5年生が行っています。社会で学習した知識や実際の体験が新たな疑問を生み、農家さんに直接質問したり、家庭学習で調べたりする活動につながっていきました。教科での学習内容を活用して、子どもたちが主体的に活動している姿を見ることができました。

このように、単独の教科の学習以上の学習効果が生まれるのが、「カリキュラム・マネジメント」だと実感しました。今後も、各教科で学んだことを様々な場面で活用できるように関連付けていきたいと思っています。

よく考える子 自分の考えをよりよく伝えたり、相手の 考えをしっかりと受け止めたりできる子

6年生修学旅行～見通しと振り返り

8月30日(火)～31日(水)に、6年生は、登別・白老方面へ修学旅行に行きました。

子ども達は様々な施設の見学を通して見聞を広めたり、友達との寝食を共にしたりして、楽しい思い出をつくりました。その他にも、集合時間を守ることや、みんなが楽しむためにはどうしたらよいかなどの集団行動をすることができました。



えこりん村



伊達時代村

帰校式での担任からの話では、今回の修学旅行でうまくできた理由は、これまでの学校生活をきちんと過ごしてきた成果だという話がありました。修学旅行に限らず、普段の生活で取り組んできたことが成功につながりました。

さて、下のように、帰ってきた後、早速修学旅行の振り返りを行いました。「チームのみんなと考えたり、話し合いをすることができた。」「自分のことばかりではなく、友達のことも考えて行動することができた。」など、自分が身に付けた力を振り返りました。この振り返りを通してそれぞれが今後の生活にどのように生かしていくかを考えました。

10月に学芸会があります。今回の振り返りを生かして、学芸会までの自分の「ありたい姿」をイメージし、その実現に向けて自分の学びをどのように調整していくとよいか、考えることができるよう子ども達を育てていきます。

振り返りカード

修学旅行

学年のスローガン — 一致 団 結

自分のめあて
おれがより、はなしにしないで、自分から積極的に行動する。

係活動のめあて(カス!?係)
みんながバスレクで楽しむように、みんなが平等にできるもの考える。

【めあてのり】
おれが一人だけかきおろを見るのではなく、みんなで見ることでおれがより、はなしになることがなくなった。

【めあてのり】
みんなが知っているキャラクターが歴史の人物も問題にすることで平等にできるもの考えた。

修学旅行のふりかえり

修学旅行で身につけた力
自分からどこに何があるか見たりどこに行きたいか聞くことで、積極的に行動する力が身についた。

身につけた力を今後の生活にどのように生かしていきますか?
生活の中でおれがやうなくてほならないことなどがあるときは、積極的に行動することを生かしたい。

自分が見つけた友達のがんばりやよき
宮内 愛利さんがお土産を見て、馬戸を教えたり、自分の行きたい場所をかんじてくれたりとおんはなっていた。

きたえる子 身近な危険を知り、安全に生活できる子

ミニ避難訓練～自分の命を守る

9月6日(火)にミニ避難訓練を行いました。今回の目標は、「掃除中に地震が起きたらどのように行動するか」です。訓練では「放送をしっかりと聞き、どこで何が起こったのか」を把握することや「窓から離れたところや落下物を避ける場所で身を守る姿勢をとること」ができました。その後は、教室へ戻って反省を行いました。

今回の目標は、教室以外の場所でも「地震が起きたときに対応することができること」です。災害は、いつ、どこにいるときに起こるかは分かりません。また、地震が1回で終わらず、断続的に続く場合もあります。避難をするときの大切なことや訓練で学んだことを、状況の異なる災害時にも応用していくことができるよう、次の訓練や日々の安全指導を通し、自分の命を守る行動ができるよう学習を進めていきます。

仲よくする子 いろいろな人と仲よくできる子

教育実習生～出会いと別れ

8月23日(火)～9月16日(金)までの約4週間、本校に教育実習生4名が、教育現場での体験学習を行いました。

どの学級の子ども達も教育実習生を温かく迎え入れ、休み時間には実習生とグラウンドで楽しく遊ぶ姿が見られました。授業では実習生の熱心な授業に興味をもって取り組みました。実習最終日には、別れを惜しんで悲しむ子、プレゼントやお手紙を渡す子など、それぞれに感謝の気持ちを伝えていました。

日	曜	10月の行事予定
3	月	交通安全の日、朝の見守り活動(～5日)
4	火	参観日(1・6年)、1年親子レク
5	水	参観日(2・3年)、3年親子レク スクールカウンセラー井上先生来校
6	木	参観日(4・5年)、5年親子レク
10	月	祝日(スポーツの日)
11	火	臨時休業(旭川市教育研究大会のため)
17	月	諸費引き落とし日
18	火	ALT(スレバー先生)来校
20	木	学芸会総練習
22	土	学芸会保護者公開日
24	月	振替休業日
25	火	クラブ活動
31	月	朝会、読書月間(～11/30)

※予定は変わることがあります。学級通信でご確認ください。